

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473001053
法人名	株式会社 カスタムメディカル研究所
事業所名	グループホーム すみれの家
訪問調査日	平成 20 年 9 月 10 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 24 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1473001053
法人名	株式会社 カスタムメディカル研究所
事業所名	グループホーム すみれの家
所在地	神奈川県大和市深見台1-10-15 (電話) 046-200-1065

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成20年9月10日	評価確定日	平成20年10月24日

【情報提供票より】(平成20年7月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 9 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 12.3 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	124,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(平成20年7月14日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名	
要介護1	1 名	要介護2	9 名			
要介護3	4 名	要介護4	4 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	87 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	若葉クリニック、湘陽かしわ台病院、湘南台中央デンタルクリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大和駅から徒歩15分の閑静な住宅街にあり、広めの駐車場を完備し、各居室、食堂、居間は採光良く、周囲の畑や雑木林から四季を感じることができる環境にある。

利用者の自主性を引き出す支援に向けて、職員の仕事は自立の支援であることを利用者にはわかるように説明し、利用者それぞれが得意なことを自発的に取り組んでもらっている。

自治会を始め、地域の小学校、幼稚園からの来訪を受けて地域交流をはかりつつ、全職員が事業所の理念である「人格の尊重と家庭に近いくつろいだ生活の実現を」目指して、日々のサービスに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価を通じて、全職員で利用者にとって一番良い事は何か考えることで、良好なチームワークが取れることにつながり、利用者のペースに合わせた穏やかな暮らしの実現に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者から職員に評価の意義について説明を行い、自分たちの介護姿勢、方法が利用者から見てどうかを振り返り、全職員で意見を出し合い評価に取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。認知症の認識を地域の方々に伝えることで、グループホームの存在価値が認められるようになり、災害時の協力体制の申し入れなど、より地域との密着が得られるようになっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からの意見、苦情等の受付窓口を明確にするとともに、玄関に意見箱を設置し、来訪時や運営推進会議などでも聞くようにしている。寄せられた意見、苦情等は、職員間で話し合い、その後の運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会へ加入し、地域の祭礼参加など、地域との関わりを大切にしている。近隣の小学生の街探検で見学を受け入れ、利用者子どもがふれあい、今後の交流の定例化を考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平穏に静かに暮らしていける事が一番と考えて、一人ひとりの人格の尊重と可能な限り家庭に近い環境での生活の支援を事業所独自の理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に意識できるように、職員の目に付く各ユニットの事務室内に理念を掲示し、管理者及び職員が朝礼時や会議で話題にして、理念の共有と実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の夏祭りへ地域住民を招待、また、神輿の立ち寄り、盆踊りへの利用者参加、地区社協便りの取材の機会などを通じて、地域交流を行っている。街探検として近隣の小学生の来訪があり、その際のお礼の手紙集が利用者や職員の宝物となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価をサービスの質の向上の取り組みの良き機会と捉え、管理者から職員に意義を説明している。一年を振り返って、利用者にとって一番良い事は何かを全職員で考えることで、良好なチームワークが取れることにつながり、利用者のペースに合わせた穏やかな暮らしの実現に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、事業所の現況を説明するほか、委員から認知症の正しい認識がわからないとの意見を受けて、グループホームの機能と認知症について説明を行ったことで、現在では地域の方に認知症の正しい認識とグループホームの存在意義が認められるようになり、災害時の応援を依頼できるまでの関係を築いている。職員には会議録で伝え、情報の共有に努め、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム連絡会に参加し、入居状況、困っていることや疑問に思っていることなどを市の担当者に相談している。また、市から研修、その他様々な情報の提供があり、「ICFの視点」講座に職員7名が参加し、介護計画の作成に取り入れ、サービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の「すみれ便り」と共に預かり金の金銭収支を領収書を添えて家族に送付し、近況を伝えている。また、体調変化など緊急連絡は随時電話連絡をし、都度状況を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書、重要事項説明書に苦情の取り扱いや申し立て機関を明記している。玄関にご意見箱を設置し、来訪時や運営推進会議時などで家族の意見等を募っている。意見、苦情等が寄せられた際は、職員間で話し合い、その後の運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	朝礼やカンファレンス等で職員が意見を出せる機会をつくり、必要に応じて管理者が運営者に報告し、回答を職員に伝えている。異動や離職がある場合には、退職者と新規採用者の勤務に1ヶ月間の重複期間を設けて、利用者へのダメージを防ぐよう配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤、非常勤の区別なく、研修の情報を知らせ、勤務調整をして、法人グループ内研修、外部研修への参加を推奨している。研修後は報告書を作成し、カンファレンス等を活用して、職員間で共有している。新人職員は、勤務初日の半日を声をかけられずに一人で過ごし、不安感を体験することで、声かけと気遣いの大切さを認識させ、OJTで以後の活動に活かしている。また、同一法人のグループホーム間で、事例検討や勉強会などの交換研修を行い、ヒヤリハット録を取り入れるなど、サービスの質の向上に繋げている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム管理者連絡会や介護従事者交流会に参加し、情報交換や勉強会などのネットワーク作りをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に先立ち、職員は利用者の情報から何が出来るか、何が得意かなどを把握して、さりげなくアプローチが出来るようにしている。グループホームを見学してもらい、職員との面談で顔見知りの関係を構築して、不安の解消をはかり入居につなげている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員の仕事は、自立の支援であることを利用者にはわかるように説明し、炊事、洗濯、掃除、裁縫などそれぞれの利用者が得意なことを、自発的に手伝ってもらっている。昔ながらの生活の知恵を教わりながら「ありがとう」の言葉をかけ、人生の先輩、師として尊敬の念を持って接している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの思いを知るために一対一で関わり、話を傾聴する時間を作っている。「何がしたい」「何が不安」などその原因と背景を含めての把握に努め、記録している。その情報をもとに職員間で話し合い、共有し、利用者の希望に沿うように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>特記事項、申し送り事項などをミニカンファレンスで現場の意見としてまとめ、計画作成担当者に提出している。本人の希望や思いを踏まえ、現状を把握した上で、家族と職員で相談の上、短期(3ヶ月)、長期(6ヶ月)の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の状況変化は職員による日常生活の観察で把握し、朝礼やカンファレンス、記録等で職員間で共有し、定期的(3ヶ月毎)に見直しを行っている。状況の変化があった場合は、随時、家族を含めた関係者と話し合い、介護計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームでの対応が困難になった利用者や退居後の相談に応じている。同一法人の施設あるいは近隣施設への紹介など出来る限り希望に沿えるように、かかりつけ医と相談をして、支援している。緊急時に対応困難な家族には成年後見制度の説明をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医での受診希望者には、継続して受診してもらっている。協力医療機関では、内科医、精神科医の往診が月2回、協力歯科医療機関の歯科医は月4回ある。緊急時には電話で指示を得られ、また、診察の際には早急に対応してもらえる体制となっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	症状が重度化し共同生活が困難と判断された際には、家族、かかりつけ医を交えて話し合い、症状に応じた受け入れ可能な特別養護老人ホームなどへ申し込みを薦める方針を、入居時に利用者、家族に説明するとともに、全職員で共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや支援を行う際は、人生の先輩として常に尊敬の心を持って行うよう、朝礼やカンファレンスの際に職員間で確認している。契約時に、利用者、家族にプライバシー保持について説明し、個人名が付いたケア記録等の関係資料は、事務所の書類保管庫で管理している。訪問調査時に、職員の利用者への言葉かけについて、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮されていた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間は利用者個々人の自由としている。散歩、買い物、食事の好みも利用者の希望を取り入れ、決して無理強いすることなく「穏やかに、落ち着いた生活」の実現に向けて、職員間で協力し合って利用者のペースに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買い物に出かけて食材を購入し、両ユニットとも野菜の皮むきなど食事の下ごしらえ、配膳、下膳、食器洗いなど、それぞれに出来る人に、出来ることを手伝ってもらい、職員から利用者へ感謝の言葉をかけつつ、食事作りと食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回行い、シャワーは希望により随時行っている。入浴を好まない利用者には好みの入浴剤やタオルの使用、時間帯の変更など、無理強いすることなく工夫しながら楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の生活歴や日常の観察から、利用者ごとに得意なことを把握しており、希望に沿って日々の生活に活かせるように取り組んでいる。利用者が自分の役割として行動することに対して、職員が感謝の意を伝えることで、役立ちを感じてもらえるように支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよい日には、無理強いせず、希望者で近くの公園への散歩、買い物への同伴など、戸外に出かけるよう支援をしている。また月に1回、食事を兼ねた外出を計画して、利用者から好評を得ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りを基本とした施錠のないケアを実践しており、日中は玄関の施錠をしていない。ただし、万が一の危険防止策として、家族の了解の上でユニットの出入りにチャイムセンサーを取り付けるとともに、最寄交番への協力依頼をし、事故防止に努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	通報機器の点検を4月に、避難訓練を毎年10月に行っている。防災マップを事務所内に掲示するとともに、職員は利用者の居場所を常に把握している。運営推進会議で、地域に災害時の協力要請を行うとともに、事業所内に水、非常食の備蓄をしている。職員には救命講習会の受講を奨励している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事、水分の摂取量を個人別に日々記録管理し、職員間で共有している。事後献立表を法人の栄養士がチェックし、指導、助言を受け体制になっている。かかりつけ医による定期検査でも栄養状態のチェックを行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂には大きな窓があり採光が良く、近くの畑や雑木林の四季の彩りを感じることができるようになっている。また、食堂、廊下壁面に季節に合わせた壁紙や折り紙の作品が貼られて楽しさを演出する工夫や、利用者が床掃除を行い、清潔で、居心地良く過ごせる工夫がされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>重要事項説明書に馴染みの品の持込を推奨することを明記し、居室には使い慣れた馴染みの家具、仏壇、写真など本人の好みに配置され、落ち着いて居心地良く過ごせるよう工夫がされている。</p>		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム すみれの家
(ユニット名)	つくしんぼ
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 ・ 大和市
記入者名 (管理者)	山内 史美
記入日	平成 20年 7月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	基本理念を忘れることの無い様に、職員が目につくところに、理念を掲げてある
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	社会福祉協議会の機関紙を玄関に置き、ホームを訪れる方に配布している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者やその周りの方々がお困りの様子の時には、入居の有無に関わらず、出来る限りのお力添えをするように、心掛けている、また小学生の街探検の際の見学も受け入れている	○	小学生の見学や、中学生の体験学習などを受け入れていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は、自分たちがより良い介護を実践していくためのものであることを理解し、職員が話し合い、今回の自己評価に取り組み、問題点を把握し、改善に努めている	○	職員が皆で評価することで、問題点を見つける良い機会になったのでこれからも続けていく
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際に入居者様の取り組んでいるレクを体験していただきながら、認知症についてのご理解を深める試みを行ない、認知症介護についてのご意見をいただき、日々の介護に活かし、その結果の報告をしている	○	介護職でない一般の方の視点から意見をもっと沢山お聴きして、参考になることは取り入れ、毎日のケアの向上に活かしていきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム連絡会に参加いただいております、グループホームとして困っていることや疑問に答えていただいております、それ以外においても、担当者に相談できる環境をつくっていただいております		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者やご家族からの相談を受け、必要に応じて市の職員及び地域包括支援センターや社会福祉協議会などと連絡を取り、パイプ役となるよう努めている	○	成年後見制度は必ず、必要になる制度なので、もっと学んで活かしていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のない介護を実践していくために、外部研修に参加し、学んだことをもとに、実践していくためにどのようにしていくべきかを話し合っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書や重要事項説明書を読み合わせ、不明な点がないか確認をし、納得が得られてから契約を行なうようにしている	○	契約の際は、必ず職員を同席させるようにしている
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の苦情や意見には、傾聴を心がけ、利用者が管理者や職員に対して遠慮なく意見を言えるように、受け入れる体制をつくり、意見をいただいた時には、早急に対応できるように職員で話し合っている	○	苦情や意見などは、トラブルを避けるために、記録を残すようにしている
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、近況を伝える手紙と出納帳を送付したり、すみれ便りを発行し活動内容を報告すると共に、体調変化においては、適時電話連絡をし、面会に来られたご家族には、職員が近況を伝えている	○	誰が聞かれても、入居者様の状況がわかるように、毎日の朝礼などで情報を共有している
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、重要事項説明書には苦情申し立て機関を掲載して、ご意見をいただき、ご意見や苦情に対しては、すぐに対応し、その後の運営に活かせるようにしている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やカンファレンス等で意見を述べる機会をつくり、意見や不満などについて、運営者に報告すべきことは管理者より報告し、回答を受け、スタッフに伝えている	○	職員一人一人の意見を明確に運営者に伝え、反映させることで、働く意欲が増し、良い介護に繋がっている
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員一人一人が介護をするための人員確保の重要性を理解しており、勤務希望において職員間で調整したり、急病などによる突然の勤務交代などにも、柔軟に対応している		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職や移動する際は、退職や異動の時期を新しい職員と重複して勤務する期間を作るなどして、入居者様に急激な変化によるストレスを与えないようにしている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や新人研修、スキルアップのための研修などには情報を公開し、勤務の調整などを行い、受講を勧めている	○ 社員、パートの区別なく、研修や勉強会への参加を推奨しており、職員のスキルアップへの意欲も増している
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大和市のグループホーム管理者の2ヶ月に1回の連絡会、介護従事者の月1回の交流会に参加し、大和市においての情報交換をすると共に、同法人化にある他市のグループホームの管理者との連絡会に出席し、事例検討などの勉強会や職員の交換研修なども行なっている	○ 研修会や連絡会での情報は、出席していない職員にもカンファレンスなどを利用して報告している
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月に一回の法人内の管理者会議において、各ホームの意見や問題点を述べる機会をつくり、行事のおりにも運営者として協力体制を整えている。また法人として親睦会を設立し、職員の福利厚生の実を充実させている	○ 親睦会の有効な利用法について、話し合っていきたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ホームの情報や問題点を把握し、適切な指導・助言をしており、また研修等の参加を奨励している	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を決める際には、面談・ホーム見学等、何度かお会いする機会をいただき、少しでも多くお話をする機会をつくり、その際に、これまでの生活歴を記載していただいた用紙とご本人の希望や不安をお聞きして、出来る限りご希望をかなえられる様にしている	○ ご本人やご家族と受け入れる私達が此処で生活していけるかを考える時間を持つために、体験入所を取り入れていきたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた時から、話し合う機会を多くつくり、ご家族の要望や不安についてお聞きし、可能な限りお応えするようにしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居までの面談や、ご家族との話し合いの中で、金銭面や介護の必要性において、他サービスが良いと思われるケースにおいては、他サービスと連携を図り、紹介するなどしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、面談やホーム見学などで、ホームの雰囲気を感じていただきながら、顔見知りの関係を作り入居していただくことにしており、入居後もいきなり家族と疎遠にならないように、特に入居当初は可能な限り、面会においていただくように協力をお願いしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	炊事・掃除・洗たく・裁縫など、それぞれに得意とされていることや、出来ることは、お手伝いをしていただき、昔話や体験談などをお聴きすることで、歴史や生活の知恵などを学ばせていただくなど、人生の師として尊敬を感じている	○	ご本人から申し出ていただいたことは、お手伝いいただくようにしている
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の情報については、体調や心の変化、ADLの低下など変化のある事柄については、ご家族に報告し、対応についても相談をして決定している	○	入居者様に苛立ちや不満の様子がみられたときには、職員だけで考えるのではなく、ご家族に相談し、一緒に対応策を考えていただけるように、より一層働きかけていきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者様の行動や会話の中で、寂しさや不安を感じていると思われるときには、ご家族にお伝えし、面会や電話など、関わりを持っていただくように協力していただいている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・外泊に制限を設けず、いつでも馴染みの方が尋ねて来られるようにしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自立している方が、介助を必要としている方の手伝いをしたり、それぞれの役割を持って生活しており、入居者様同士の揉め事については、当事者間で解決していただき、職員は見守るようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居者様が退去された際には、家族にもご本人にも、一緒に過ぎた時間を思い出していただけように行事などの写真をアルバムにしてお贈りしている。また、行事にお誘いして、ご本人やご家族とお会いしたり、転居先の施設や病院の担当者に近況をお聴きするなどしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と入居者様が1対1で関わることで、今何をしたいのか?不安に思っているのはどんなことなのか?など、いろいろなお話を傾聴する時間を持ち、問題点については、職員間で対応について話し合いをしている	○	入居者様の想いを傾聴するために、それぞれの方と1対1の時間を多くつくっていきます
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ご家族や担当のケアマネージャーなどより情報をいただき、その情報について、職員間で共有し、話し合い、対応している		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	活動的な方とそうでない方など一人一人が違う一人であることを常に念頭におき、個々の個性を大切にしながら、支援している	○	長い間、入居されている方でも、いろいろな場面で新しい情報を得られることがあり、その情報を共有し、より良い支援をしていきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画の作成にあたっては、ご本人の日常の希望や想いをふまえて、ご家族と職員と話し合いをし、いろいろな視点で方向性を考えながら、作成している	○	情報整理シートの記入を職員が行ない、ご家族にも確認していただき、それをもとにケアプランの作成している
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活の中でいち早く、入居者様の変化を把握し、朝礼やカンファレンスにおいて職員間で情報交換をし、変化の大きい方についてはご家族に報告をすると共に話し合いを持ち、計画の見直しを行なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常的な項目と特別な出来事の項目を設け、変化の把握が出来るようにし、特に注意すべき事柄は、特記事項に記載することで問題点を見つけ、職員間で日々話し合いを持ち早急に対応できるようにしている	○	特記事項を設けることで、早期に問題点を見つけられるようになった
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームにおいて、生活が難しくなった方や、他施設への移動の希望があったときなどは、同法人下にある施設を紹介したり、近隣の施設の情報を提供するなど可能な限りご希望に添えるように支援している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの小学校の生徒の見学を受け入れたり、社会福祉協議会の広報誌の閲覧の場所として提供しており、ボランティアによる行事も定期的に行なっている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設のケアマネジャーや介護者の方々と接する機会を持ち、情報交換を行ない、必要時にはサービス利用の相談をしている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者様やご家族の抱えている問題がホームで対応できないような事例である場合などは、地域包括支援センターに相談することとしている	○	成年後見制度の利用についてや困難事例などについては、抱え込むことなく、地域包括支援センターを利用したい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の往診で入居者様の体調の把握をしており、緊急時には、電話による指示や、早急な診察などしていただき、年に1回の健康診断の際は、待ち時間なくとの配慮から、クリニックの休憩時間に受診させていただくなど、入居者様を理解したうえでの対応をいただいている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	同法人下の心療内科医により、月2回往診を受け、入居者様一人一人の問題点や心の変化などについて相談し、治療を受けている。また、介護上の悩みについても相談し、ケアにおける注意点なども指導していただいている	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	入居者様の体調管理のため、毎朝、血圧・体温などのチェックを行ない、異常や変化を認めた場合は、連携クリニックの看護師及び医師に指示をいただいている	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院されたときには、早急に担当医師やケースワーカー、看護師等と連絡を取り、ご家族と共に説明を受け、状況変化があったときにも同様に説明を受けられるよう、連携を保つようにしている	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	入居時の説明の際に、重度化し共同生活が出来なくなったときについては、退所していただく旨お話しているが、急激に状況が変化した際には、かかりつけ医を交えて話し合いを持ち、その後の対応を決め、それに沿った支援をしている	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	医学的処置が必要になったり、寝たきりになってしまったときには、退所していただくこととなる旨を入居時にご家族に説明し、同意をいただいている	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	個人情報であるため、ご家族やご本人の了解を得て、転居先に対し、必要と思われる情報をお伝えしている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや支援を行なう際の対応については、年長者であることを常に念頭において、行なうように朝礼やカンファレンスにおいて常時意識付けをし、記録類は必要時以外は事務所に保管している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	傾聴を基本とし、その方にとって重要な事柄については、1対1のはなしあいの出来る時間をつくり、入居者様のニーズをお聴きし、それに応えられるように支援している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一番大切なのは、入居者様が落ち着いて生活できること・・・を基本とし、業務はスタッフ間で協力し、入居者様が穏やかに生活できるように、一人一人のペースを乱すことのないように、配慮を心掛けている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容師により、ご本人の要望にそった整髪をしていただいております。ご本人が行きつけの美容院をご希望の際は、そちらへ行けるように協力し、また、化粧品などでお気に入りの方がいる方には、必ずそれを提供するなど、可能な部分は入居前と変化のないように心掛けている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、餃子包み、ハンバーグの形作りなどなど、出来ることはお手伝いをお願いし、片付け上手な方には、食器洗いやテーブル拭きなどそれぞれに役割を持っている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族がお持ちになったおやつなどを居室で召し上がる方、大好きなコーヒーをご自分で入れてお飲みになる方など、嗜好品については、個人の好みを重視し、甘いものが苦手な方、冷たいものが苦手な方など、職員が把握し、それぞれの好みに合わせて対応している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録により、排泄パターンを把握し、排尿のお声掛けをしたり、便秘がちな方などは、かかりつけ医に相談、指示を受け、決まった時間に排便が出来るよう、観察して、トイレで排泄できることの気持ち良さを認識していただけるように支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を苦手としている方には、時間を変えたり、入浴剤を好みのものにしたたり、好みのタオルや着替えを用意するなどの工夫をして声掛けし、決して無理強いしないようにしている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの過ごしたい場所で、ゆっくり過ごしていただけるように、必要以上に言葉掛けをしたり、むやみに居室を訪問しないようにしている	○	食事時間などがわかっている方は時計を見て、食事やおやつに出てきていただくことで、時間の感覚を無くさないように支援している
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の清掃は、掃除機をかける方、モップをかける方、雑巾で拭き掃除をされる方など、それぞれ分担が決まっており、清掃の時間になると入居者様のほうから、お声をかけていただくことがある 洗濯物の籠を見つけると率先して干してくださる方もいて、皆さん自分の仕事と認識されていらっしゃる	○	ご自分から、手伝いを申し出た方には、多少の危険がある事でも、見守り、援助を行いながら、手伝っていただいている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのスーパーへ出掛けた際に、個人のもはご自分で会計していただくように、専用のお財布をお渡しして、一人で買い物を出来るように、支援している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は、近くの公園へ散歩に出掛けたり、買い物に同伴していただくなど、している また、月に1回程度は、外食をして、戸外へ出るようにしている	○	誕生日を迎える月には、その方の好みをお聴きし、外食に出掛けており、必ず、写真入りの手作りカードをお渡ししている
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者のご要望で、動物のいる公園や水族館などへ出掛けているご家族との外出を申し出たときには、制限することなく出掛けていただいている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から、電話使用の希望があった時は、事務所の電話を何時でも使っていただいております、かかってきた電話の取次ぎも常時行なっている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会や外泊・外出に制限を設けておらず、何時でも馴染みの方が尋ねて来られ、居室やリビングなど、好きなところで一緒に過ごしていただけるようにしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないために、入居者の望んでいること、不安に感じていることは何か？を考え、問題点は早急に話し合い、拘束を必要としない、不穏のない生活が出来るように支援している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、面会や、馴染みの方の来訪を妨げず、出入りを自由にするため、玄関の鍵はかけていない		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は業務している時も、どなたかのケアをしている時も、他の入居者様の動きや、足音を感じられるように留意し、個々の入居者の所在を把握できるように、配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人の希望により、居室ではさみや針などをご使用になられるときには、使用後、本数の確認を一緒に行ない、危険のないように保管するよう、見守りを行なっている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防火管理や救急法の講習会を受講し、定期的にホーム内研修において勉強会を行なっている また、危険と思われることは、ヒヤリハットを記録し、話し合いを持ち、その結果に基づいた入居者一人一人のケアを実践している	○	ヒヤリハット報告書を書くことにより、危険回避の対応を早期に行なうようになった

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急法の受講や怪我の際の応急手当について、定期的に勉強会を行っており、119番通報や救急法の手順を職員が何時でも確認できる場所に掲示している		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難場所や避難方法について、職員が周知し、消防計画に基づき、防災・避難訓練を行っており、また、日々の生活やレクリエーションに下肢筋力低下防止の運動を取り入れ、非常時に対応できるように取り組んでいる	○	防災マップを事務所に貼り、災害時の避難場所を確認できるようにしている
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に説明するのはもちろんのこと、状態変化に合わせて、ご家族に報告し、主治医を交えて対応について話し合っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の検温・血圧測定、入浴時の身体チェック、食欲不振時の原因の把握を行ない、早期に異変を察知できるように配慮し、異変時には、主治医及びご家族に報告・相談をし、それらの情報を職員間で共有し、対応している	○	血圧の変動や発熱、皮膚の変化など、異常を見つけたときには、かかりつけ医にすぐに連絡し、早期受診や処方の変更などの指示をいただくなど、早急に対応することとしている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとに服用している薬の効能書きをファイルしており、効果や副作用などの情報を何時でも確認できるようにしており、薬の変更があったときには、そのために起こりうる、症状変化等について情報を共有し、服用後の微細な変化についての情報もかかりつけ医に報告相談している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の水分量のチェックと食事は可能な限り、加工品を使用せず、野菜や海藻類の食物繊維を多く摂取できるよう、メニューに気を配り、毎日の体操や散歩で運動を行なうようにして、排泄を促すようにしている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後、就寝前に口腔ケアを行ない、義歯は毎晩消毒を実施、訪問歯科医による定期的なチェックも受けている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	透析をされている方や高脂血症など、個々の制限や好みについて理解した上で、それぞれに合わせた食事量、水分の提供をしており、食事や水分の摂取量は必ず記録しており、かかりつけ医による、定期的な検査で栄養上の問題点の指摘を受けられる		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに準じて、流行時期の前に勉強会を行ない、感染をおこさないための排泄物や吐物の処理については、手順を掲示して、間違いのないように確認しながら行なっている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎日、まな板・包丁はその都度、使用後に消毒を行ない、食器類は食器乾燥機を使用している 食材は短期間で使いきれぬ量を購入し、開封したものは早期に使いきるようにしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉を設けず、いつでも誰でも立ち寄っていただけるように、明るい雰囲気づくりを心掛けている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と一緒に季節に合わせた壁紙作りをして、廊下や階段の壁に飾ったり、お誕生会や外出した時の思い出の写真を飾り、心地よい空間づくりを心掛けている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間に境を設けず、食堂では椅子に腰掛けて、新聞を読まれる方、スタッフや他の方とご歓談される方、居間ではソファに座ってテレビやビデオをご覧になる方とそれぞれが自由に過ごされている	○	以前は畳とフローリングで分けていたが、スリッパの脱ぎ履きによる転倒の危険性を重視し、スリッパのまま移動できるようにした

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様ご本人の馴染みの物を好みの配置に置き、出来る限り家庭に近い居室環境の中で落ち着いた生活が出来るように配慮している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有部分においては、入居者様の体感に合わせた温度・湿度を保てるように気をつけ、各居室においても、個人の好みに合わせた温度に設定し、定期的に訪室し、適温を保つように注意している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロア、バリアフリーとなっていて、壁に手摺が付いているため、屋外では杖を使用される方も、室内では杖無で生活している また、キッチンが中央部に位置しており、入居者様の動きを見渡せるため過度な援助をせず、見守ることが出来る		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	むやみに言葉かけをするのではなく、見守りの中で必要に応じて言葉かけをし、行動に混乱しているときは、解決のヒントを提案することで思い出して動作できるように援助するなど、行動することへの気力を無くさないような支援を心掛けている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭先に花壇を作り、季節の花の鉢植えを置き、ベンチに腰掛けて、体操をしたり、歌を唄ったり、季節の風やせみの声、ウグイスの鳴き声に聞き入ったりと自然に触れ合っている		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様の変化を見つけたときには、すぐにスタッフで情報を共有し、対策を考えて行けるように、毎朝の朝礼、申し送り、カンファレンスの時間を大切にしています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム すみれの家
(ユニット名)	どんぐり
所在地 (県・市町村名)	神奈川 ・ 大和市
記入者名 (管理者)	山内 史美
記入日	平成 20年 7月 22日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	入居者様一人一人の人格の尊重と、可能な限り家庭に近い生活を送れることを重視し、理念としている	○	基本理念を忘れることのないように、職員が目につくところに、理念を掲げている
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念を常に念頭におき、管理者と職員で日常の朝礼やカンファレンスにおいて、入居者様一人一人のケアについて話し合いをし、実践している		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	運営推進会議において、ご家族や地域の方々に日常のケアについて報告し、ご意見をいただくようにすると共に、ご家族が面会においでの際に、個人のケアについて話し合いを持ち、ご理解いただくよう働きかけている		
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩や外出の際には、挨拶を交わしたり、門扉の設けないことによりご近所の小さなお子さんが、庭の風車を見に立ち寄ってくださったりしています		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会員として、盆踊りへの参加、獅子舞、神輿の訪問など季節の行事における交流、社会福祉協議会の広報の配布の協力などを行なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者やその周りの方々がお困りの様子の時には、入居の有無に関わらず、出来る限りのお力添えをするように、心掛けている、また小学生の街探検の際の見学も受け入れている	○	小学生の街探検に立ち寄ってくれたことで、入居者様がとても喜ばれており、このような交流をもっと受け入れていきます
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は、自分たちがより良い介護を実践していくためのものであることを理解し、職員間で1年間を振り返り、今回の自己評価に取り組み、問題点を把握し、改善に努めている	○	職員が皆で話し合っって評価することで、問題点を見つける良い機会になったのでこれからも続けていく
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際に入居者様の取り組んでいるレクを体験していただきながら、認知症についてのご理解を深める試みを行ない、認知症介護についてのご意見をいただき、日々の介護に活かし、その結果の報告をしている	○	介護従事者でない方の意見を聞くことにより、違った視点でのケアのヒントをいただけるので、これからもこの会議での気づきを大切にしていきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム連絡会に参加いただいております、グループホームとして困っていることや疑問に答えていただいております、それ以外においても、担当者に相談できる環境をつくっていただいております		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者やご家族からの相談を受け、必要に応じて市の職員及び地域包括支援センターや社会福祉協議会などと連絡を取り、パイプ役となるよう努めている	○	成年後見制度はこれから必要になる方が、多く出てくると思われるので、もっと学んで活かしていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のない介護を実践していくために、外部研修に参加し、学んだことをもとに、実践していくためにどのようにしていくべきかを話し合っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書や重要事項説明書を読み合わせ、不明な点がないか確認をし、納得が得られてから契約を行なうようにしている	○	契約の際は、必ず、職員を同席させている
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の苦情や意見には、傾聴を心がけ、利用者が管理者や職員に対して遠慮なく意見を言えるように、受け入れる体制をつくり、意見をいただいた時には、早急に対応できるように職員で話し合っている	○	入居者が安心して意見を言えるような、馴染みの関係作りを心掛けていきます
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、近況を伝える手紙と出納帳を送付したり、すみれ便りを発行し活動内容を報告すると共に、体調変化においては、適時電話連絡をし、面会に来られたご家族には、職員が近況を伝えている	○	どの職員もご家族に近況をお話できるように、朝礼や申し送りで情報を共有している
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、重要事項説明書には苦情申し立て機関を掲載して、ご意見をいただき、ご意見や苦情に対しては、すぐに対応し、その後の運営に活かせるようにしている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やカンファレンス等で意見を述べる機会をつくり、意見や不満などについて、運営者に報告すべきことは管理者より報告し、回答を受け、スタッフに伝えている	○	職員がストレスを持たないために、自分の意見を言うことが出来るようにし、そのことについて、早急に対応するように運営者に働きかけている
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員一人一人が介護をするための人員確保の重要性を理解しており、勤務希望において職員間で調整したり、急病などによる突然の勤務交代などにも、柔軟に対応している		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職や移動する際は、退職や移動の時期を新しい職員と重複して勤務する期間を作るなどして、入居者様に急激な変化によるストレスを与えないようにしている	○	退職、異動の際には、入居者にダメージを与えないように、他の職員が気遣いながら、フォローしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や新人研修、スキルアップのための研修などは、社員、パートを問わず、情報を公開し、勤務の調整などを行い、受講を勧めている	○ 社員、パートの区別なく、研修や勉強会への参加を推奨しており、職員のスキルアップへの意欲も増している
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大和市のグループホーム管理者の2ヶ月に1回の連絡会、介護従事者の月1回の交流会に参加し、大和市においての情報交換をすると共に、同法人化にある他市のグループホームの管理者との連絡会に出席し、事例検討などの勉強会や職員の交換研修なども行なっている	○ 研修会や連絡会での情報は、出席していない職員にも朝礼、カンファレンスなどを利用して、報告している
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月に一回の法人内の管理者会議において、各ホームの意見や問題点を述べる機会をつくり、行事のおりにも運営者として協力体制を調べている。また法人として親睦会を設立し、職員の福利厚生の実現を図っている	○ 親睦会の有効な利用法について、話し合っていく
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者会議や電話連絡等において、ホームの情報や問題点を把握し、適切な指導・助言をしており、また研修等の参加を奨励している	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を決める際には、面談・ホーム見学等、何度かお会いする機会をいただき、少しでも多くお話をする機会をつくり、その際に、これまでの生活歴を記載していただいた用紙とご本人の希望や不安をお聞きして、出来る限りご希望をかなえられる様にしている	○ ご本人やご家族と、受け入れる職員が、お互いに此処での生活が可能であるかを考える時間を持つために、体験入所を取り入れていきたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた時から、話し合う機会を多くつくり、ご家族の要望や不安についてお聞きし、可能な限りお応えするようにしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居までの面談や、ご家族との話し合いの中で、金銭面や介護の必要性において、他サービスが良いと思われるケースにおいては、他サービスと連携を図り、紹介するなどしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、面談やホーム見学などで、ホームの雰囲気を感じていただきながら、顔見知りの関係を作り入居していただくことにしており、入居後もいきなり家族と疎遠にならないように、特に入居当初は可能な限り、面会においていただくように協力をお願いしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	炊事・掃除・洗たく・裁縫など、それぞれに得意とされていることや、出来ることは、お手伝いをしていただき、昔話や体験談などをお聴きすることで、歴史や生活の知恵などを学ばせていただくなど、人生の師として尊敬を感じている	○	ご自分から、申し出ていただいたことは、やっていただくこととしている
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の情報については、体調や心の変化、ADLの低下など変化のある事柄については、ご家族に報告し、対応についても相談をして決定している	○	入居者様の苛立ちや不満の様子がみられたときには、職員だけで考えるのではなく、ご家族に相談し、一緒に対応策を考えていただけるように、より一層働きかけていきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者様の行動や会話の中で、寂しさや不安を感じていると思われるときには、ご家族にお伝えし、面会や電話など、関わりを持っていただくように協力していただいている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・外泊に制限を設けず、いつでも馴染みの方が尋ねて来られるようにしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自立している方が、介助を必要としている方の手伝いをしたり、それぞれの役割を持って生活しており、入居者様同士の揉め事については、当事者間で解決していただき、怪我などの危険がない限りは、職員は見守るようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居時、一緒に過した時間を思い出していただけるようにホームで過した思い出の写真を小さなアルバムにしてお贈りしており、行事にお誘いして、ご本人やご家族とお会いしたり、転居先の施設や病院の担当者に近況をお聴きするなどしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と入居者様が1対1で関わることで、今何をしたいのか?不安に思っているのはどんなことなのか?など、いろいろなお話を傾聴する時間を持ち、問題点については、職員間で対応について話し合いをしている	○	入居者様の想いを知ることが出来るように、それぞれの方と1対1の時間を多くつくりたいと思います
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ご家族や担当のケアマネージャーなどより情報をいただき、その情報について、職員間で共有し、話し合い、対応している	○	入居後、知りえた情報も職員間で共有し、ケアに繋げていく
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	活動的な方とそうでない方など一人一人が違う一人であることを常に念頭におき、個々の個性を大切にしながら、支援している	○	長く入居されている方でも、いろいろな場面で新しい情報を得られることがあり、その情報を共有し、より良い支援をしていきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画の作成にあたっては、ご本人の日常の希望や想いをふまえて、ご家族と職員と話し合いをし、いろいろな視点で方向性を考えながら、作成している	○	情報整理シートの記入を職員が話し合いながら行ない、ご家族にも確認していただき、それをもとにケアプランを作成している
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活の中でいち早く、入居者様の変化を把握し、朝礼やカンファレンスにおいて職員間で情報交換をし、変化の大きい方についてはご家族に報告をすると共に話し合いを持ち、計画の見直しを行なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常的な項目と特別な出来事の項目を設け、変化の把握が出来るようにし、特に注意すべき事柄は、特記事項に記載することで問題点を見つけ、職員間で日々話し合いを持ち早急に対応できるようにしている	○	特記事項を設けることで、早期に問題点を見つけられるようになった
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームにおいて、生活が難しくなった方や、他施設への移動の希望があったときなどは、同法人下にある施設を紹介したり、近隣の施設の情報を提供するなど可能な限りご希望に添えるように支援している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの小学校の見学を受け入れたり、社会福祉協議会の広報誌の閲覧の場所として提供しており、ボランティアによる行事も定期的に行なっている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設のケアマネジャーや介護者の方々と接する機会を持ち、情報交換を行ない、必要時にはサービス利用の相談をしている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者様やご家族の抱えている問題がホームで対応できないような事例である場合などは、地域包括支援センターに相談することとしている	○	成年後見制度の利用についてや困難事例などについては、抱え込むことなく、地域包括センターに相談していく
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の往診で入居者様の体調の把握をしており、緊急時には、電話による指示や、早急な診察などしていただき、年に1回の健康診断の際は、待ち時間なくとの配慮から、クリニックの休憩時間に受診させていただくなど、入居者様を理解したうえでの対応をいただいている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	入院時や入院中に、ご家族が医師より説明を受ける際は、同席させていただいている
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや支援を行なう際の対応については、年長者であることを常に念頭において、行なうように朝礼やカンファレンスにおいて常時意識付けをし、記録類は必要時以外は事務所に保管している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	傾聴を基本とし、その方にとって重要な事柄については、1対1の話し合いの出来る時間をつくり、入居者様のニーズをお聴きし、それに応えられるように支援している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一番大切なのは、入居者様が落ち着いて生活できること・・・を基本とし、業務はスタッフ間で協力し、入居者様が穏やかに生活できるように、一人一人のペースを乱すことのないように、配慮を心掛けている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容師により、ご本人の要望にそった整髪をしていただいております。ご本人が行きつけの美容院をご希望の際は、そちらへ行けるように協力し、また、化粧品などでお気に入りの方がいる方には、必ずそれを提供するなど、可能な部分は入居前と変化のないように心掛けている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなど、出来ることはお手伝いをお願いし、片付け上手な方には、食器洗いやテーブル拭きなどそれぞれに役割を持っている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の好みを重視し、甘いものが苦手な方、冷たいものが苦手な方など、職員が把握し、それぞれの好みに合わせて対応している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録により、排泄パターンを把握し、便秘がちの方などは、かかりつけ医に相談、指示を受け、決まった時間に排便が出来るよう支援し、トイレで排泄できることの気持ち良さを認識していただけるように支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を苦手としている方には、時間を変えたり、入浴剤を好みのものにしたたり、好みのタオルや着替えを用意するなどの工夫をして声掛けし、決して無理強いしないようにしている	○	入居以前から入浴が嫌いであった方について、前に受けていたサービス事業所に問い合わせ、どのようにお誘いしたか、どんな場面であれば入浴されるかなど、情報をいただき、活用している
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの過ごしたい場所で、ゆっくり過していただけるように、必要以上に言葉掛けをしたり、むやみに居室を訪問しないようにしている	○	居室で過されているときには、時計を見て、ご自分で食事やおやつのときに、食堂においていただくことで、時間の感覚や、時計を見る習慣を無くさないように、支援している
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の清掃は、掃除機をかける方、モップをかける方、雑巾で拭き掃除をされる方など、それぞれ分担が決まっている洗濯物の籠を見つけると率先して干してくださる方もいて、皆さん自分の仕事と認識されていらっしゃる		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのスーパーへ出掛けた際に、個人のものをご自分で会計していただくように、専用のお財布をお渡しして、一人で買い物を出来るように、支援している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は、近くの公園へ散歩に出掛けたり、買い物に同伴していただくなど、している また、月に1回程度は、外食をして、戸外へ出るようにしている	○	散歩にお誘いする際は、辞退される方を無理強いしないように、出掛けたい気持ちを大切にしていきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お誕生日には、その方の希望の飲食店で外食をすることとしている またご要望にて、動物のいる公園や水族館などへ出掛けている ご家族との外出を申し出たときには、制限することなく出掛けていただくよう支援している	○	年に1度のお誕生日にご自分の食べたいものをリクエストして外食するのを、皆さん、楽しみにしています

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から、電話使用の希望があった時は、事務所の電話を何時でも使っていただいております、かかってきた電話の取次ぎも常時行なっている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会や外泊・外出に制限を設けておらず、何時でも馴染みの方が尋ねて来られ、居室やリビングなど、好きなところで一緒に過ごしていただけるようにしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないために、入居者の望んでいること、不安に感じていることは何か？を考え、問題点は早急に話し合い、拘束を必要としない、不穏のない生活が出来るように支援している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、面会や、馴染みの方の来訪を妨げず、出入りを自由にするため、玄関の鍵はかけていない		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は業務している時も、どなたかのケアをしている時も、他の入居者様の動きや、足音を感じられるように留意し、個々の入居者の所在を把握できるように、配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人の希望により、居室ではさみや針などをご使用になられるときには、使用後、本数の確認を一緒に行ない、危険のないように保管するよう、見守りを行なっている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防火管理や救急法の講習会を受講し、定期的にホーム内研修において勉強会を行なっている また、危険と思われることは、ヒヤリハットを記録し、話し合いを持ち、その結果に基づいた入居者一人一人のケアを実践している	○	ヒヤリハット報告書を書くことにより、危険回避の対応を早期に行なえるようになった

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急法の受講や怪我の際の応急手当について、定期的に勉強会を行っており、119番通報や救急法の手順を職員が何時でも確認できる場所に掲示している		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難場所や避難方法について、職員が周知し、消防計画に基づき、防災・避難訓練を行っており、また、日々の生活やレクリエーションに階段の昇降を取り入れ、非常時に対応できるように取り組んでいる	○	防災マップを事務所に貼り、災害時の避難場所を確認できるようにしている
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に説明するのはもちろんのこと、状態変化に合わせて、ご家族に報告し、主治医を交えて対応について話し合っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の検温・血圧測定、入浴時の身体チェック、食欲不振時の原因の把握を行ない、早期に異変を察知できるように配慮し、異変時には、主治医及びご家族に報告・相談をし、それらの情報を職員間で共有し、対応している	○	血圧の変動や発熱、皮膚の変化など、異常を見つけたときは、かかりつけ医に電話で報告をし、指示により、早期受診や処方をしていただくなど、早急に対応している
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとに服用している薬の効能書きをファイルしており、効果や副作用などの情報を何時でも確認できるようにしており、薬の変更があったときには、そのために起こりうる、症状変化等について情報を共有し、服用後の微細な変化についての情報もかかりつけ医に報告相談している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の水分量のチェックと食事は可能な限り、加工品を使用せず、野菜や海藻類の食物繊維を多く摂取できるよう、メニューに気を配り、毎日の体操や散歩で運動を行なうようにして、排泄を促すようにしている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後、就寝前に口腔ケアを行ない、義歯は毎晩消毒を実施、訪問歯科医による定期的なチェックも受けている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方など、個々の好みや制限について理解した上で、それぞれに合わせた食事量、水分を提供し、食事や水分の摂取量は必ず記録しており、かかりつけ医により、定期的な検査を行ない、栄養の偏りなどのチェックをしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに準じて、流行時期の前に勉強会を行ない、感染をおこさないための排泄物や吐物の処理については、手順を掲示して、間違いのないように確認しながら行なっている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎日、まな板・包丁はその都度、使用後に消毒を行ない、食器類は食器乾燥機を使用している 食材は短期間で使いきれぬ量を購入し、開封したものは早期に使いきるようにしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉を設けず、いつでも誰でも立ち寄っていただけるように、明るい雰囲気づくりを心掛けている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と一緒に季節に合わせた壁紙作りをして、廊下や階段の壁に飾ったり、お誕生会や外出した時の思い出の写真を飾り、心地よい空間づくりを心掛けている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間に境を設けず、食堂では椅子に腰掛けて、新聞を読まれる方、スタッフや他の方とご歓談される方、居間ではソファに座ってテレビやビデオをご覧になる方とそれぞれが自由に過ごされている	○	以前は畳とフローリングで分けていたが、スリッパの脱ぎ履きによる転倒の危険性を重視し、カーペット敷きとし、スリッパのまま移動できるようにした

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様ご本人の馴染みの物を好みの配置に置き、出来る限り家庭に近い居室環境の中で落ち着いた生活が出来るように配慮している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有部分においては、入居者様の体感に合わせた温度・湿度を保てるように気をつけ、各居室においても、個人の好みに合わせた温度に設定し、定期的に訪室して適温を保つように支援している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロア、バリアフリーになっており、壁に手摺をつけてあるため、外出時は杖を使用する方でも、杖無でフロア内を移動できる キッチンが中央に設けられているため、食事の支度をしながら、入居者様の姿が見えるので、過度に援助をすることなく、見守りが出来る		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	むやみに言葉掛けを刷るのではなく、見守りの中で必要に応じて、言葉掛けをし、行動に混乱しているときには、解決のヒントを提案することで思い出して行動できるように援助するなど、行動することへの気力を無くさないように支援している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室のベランダから、畑が見え、春には桜の花、秋にはコスモスと季節の移り変わりを楽しむことが出来、食堂から見える林には、鳩やウグイスがいて鳴き声を楽しむことが出来る		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

」

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様が何を望んでいるのかを、知るために、1対1で対話できる時間を、多く持つようにしています。